資源環境経済学特別演習 II 議事録（１１月）

２０１１　年　度　第　９　回

報告題名　「先物市場が現代農業に果たす役割に関する研究」	
報告者　　林　文強	**日時**　　11 月 24　日　午後３時～
(**所属分野**)フィールド社会技術学	**場所**　第二講義室
座長　今井　貴浩	**議事録担当者**　八木　浩平

出席者

長谷部、木谷、安江、米澤、米倉、冬木、高篠、石井、韓、スチン、宮里、矢部、易思、威廉、王、北村、金、滝田、タンボウニ、中村、堀、山口、林、泉井、金（銀）、黄、今井、渋谷、室井、ナスンムンク、徐、趙、劉、王（偉）、伊坂、薄井、菅野、佐藤、西田、丸林

報告要旨

中国は巨大な人口を抱えており、その内、農村人口は半分以上を占めている（2010 年第 6 回人口調査によると、農村人口の比率は 50.32%）。農村地域の発展は中国の全体の発展及び社会安定に不可欠な要因とも言える。しかし、従来、工業部門を支援するために、政府は人為的に農産品の価格を低い水準に定め、鋏状価格差（price scissor）を通じて、農家の利益の犠牲を対価として、工業を急速に成長させた。長年に渡って歪んだ政策の結果は農業収入の低下や農村の不振が問題となっている。

これらの問題を解決するのに、1982 年～1986 年にかけて中央政府第一号文件は農村をテーマにし、農業改革や農村振興を目指した。その後、農業生産力の増進や農村企業が一時に著しく発展していたが、21 世紀に入ると、農民収入の低下など農村問題は再び深刻化していく。都市と農村の格差は今や中国社会の最も厳しい問題とされている。このため、2004 年～20010 年にかけて連続 7 年間に中央政府第一号文件は農家収入の増加や格差問題の解決に取り組んだ。具体的な政策というと、農業税の廃止や農業補助金の追加など政策が出されたが、農家の利益がなかなか上がれない、むしろ外国の安い農産品の衝撃で農業は利益がますます低下していた。しかも、中国市場経済の発展と伴い、従来の安定していた収入は得られなくなり、農家は巨大な市場リスクに直面している。

従って、市場メカニズムの下でのリスクはただ計画経済時代の手段で解決するのは不十分であり、市場手段を使わなければならない。その代表的なものとして、高品質やブランド化、大規模営農、流通ルートの短縮によるコスト削減などがよくあげられるが、金融市場の役割があまり重視されなかった。特に、農家に収入に関わる金融市場といえば、銀行の融資などがしか思われないだろう。先物市場は金融市場の一員として、その市場にアクセスする条件が高いゆえ、普通の農家に繋がりにくいイメージがあるかもしれない。

確かに、零細な農家は先物市場に参入するのは難しいと思うが、間接的に先物市場の影響を受けるのも事実である。現物市場の価格変動リスクに対応するのは先物市場の最も重要な機能であり、農産品業者はその機能を利用して収益を安定化させ、そして、農家の収益を安定化させることができるだろう。従来、固定の市場価格の下で、業者と農家は固定の利益をしかえられない、それで、業者は自分の利益を確保するために、できる限り低い価格で農産物を買収し、農家の利益を犠牲することがよくあったが、先物市場でヘッジした業者は安定的な供給源が必要なので、よりよい供給関係を結んだほうが望ましい。ここに、先物市場を通じて農産品業者の利益を安定化させた上で、トリクルダウン(trickle　down、おこぼれ経済)効果で農家の収益の安定化を実現させると考えている。

本論文は農家の収益の安定化、農業生産の確保、さらに格差問題の解決を最終目標として掲げ、先物市場がその目標の達成に果たしうる役割を分析し、そして、市場リスクを減らすために、現物市場、先物市場、国際市場の間の連関性についての実証分析を行う。その上に、より効率的な先物市場を作り出すのに、中国における先物市場の問題点や自分なりの意見を纏める。

質疑・応答

八木：リスクヘッジのある先物市場が、綿花販売の安定に繋がるというのは分かるが、農家の増収増益に繋がっているのか。0.01 元/kg 高く買っているらしいが、これは合作社が購入するからではないか。中国における通常の綿花の販売ルートがどうなっているか、教えてほしい。

林　：普通は、販売業者が綿花を購入する。その際の購入価格は、市場価格かそれより低い。しかし先物市場を使えば、安定した供給減の確保が大事なので、農家を囲うために少し高い価格で買う必要が出る。

八木：市場価格より高いっていうのが先物市場のおかげというのは疑問。例えば、市場価格よりも高いとして、合作社のおかげな部分があるのではないか? 言葉を尽くして、先物市場が農家にとって有利じゃないかっていう意見。

林　：先物市場を使わなければ、市場より高く売ることは難しいと思う。

今井：トリックルダウン効果とは何か?

林　：経済の発展過程において、最初は、部分的な部分を発展させて一部の人が富裕層になる。その富裕層が消費することで、その下層にいる人の収入も増えるという考え方。

米沢：先物市場をやることで、農村にどのようなメリットがあるか?

林　：メリットとしては、農家の増収。また、実証研究にある通り、農家の生産計画の調整や市場リスクの回避に繋がる。

米沢：農村の人材育成とあるが、どういう人材を育成すべきか?

林　：これは、先物市場に関する知識を浸透させるということを指す。

米沢：農村に、先物市場に知識がある人がいるべきということ?

林　：先物とは何かとかそういう基本知識が必要。

冬木：中国で先物取引が伸びているという印象を受けた。80 年代半ばから作って、世界ランキング上位にある。この膨れ上がり方は、それなりの有用性があったということか?どうして、先物取引が中国で進展したか?

林　：投機しすぎ。人口増加、経済発展の進展といった要因があると思う。2010 年 11 月、投機しすぎていることを管理する新しい政策も出ていて、2011 年 3 月には量が減った。

冬木：売買の参加者は、ヘッジャーよりも投資家の方が多いか?

林　：はい。中国では、実際の引き渡し段階に入るのは 2%位。日本は、これよりも少ない。

米倉：スライド 20 だが、市場間の因果関係を表しているということか?

林　：そうです。

米倉：スライド 15 の、ヘッジ機能モデル分析の 6 において、2 つタイプの販売業者比較が-500 だが、修正後に+500 になるのはなぜか?

林　：修正後の表は、買いポジションを買っていない場合。普通の販売時では、12,500 元の買いポジションを買うことで相殺を図るため 500 のマイナスになるが、6 の場合、買いポジションを買わなければ 12,000 元のものを 12,500 元で販売できるため、500 のプラスになる。